

名古屋の古道・街道

池田 誠一

【15】 塩付街道…瑞穂公園から飯田街道へ

1 名古屋で取れた塩

名古屋市の南区には「塩(汐)」とが「浜」という名のついた地名がいくつかあります。汐田町、塩屋町、浜中町、元塩町、上浜町等々、昔この辺りに塩浜があったことを物語っています。

名古屋の地形を見ると南区は東の方が笠寺台地になっており、昔はそこが島になっていました。塩浜はその西から南にかけての海岸、古くは呼続浜と呼ばれた地域になります。江戸時代の初め塩浜は山崎村から牛毛・荒井村までの星崎七ヶ村で100餘にも及んでおり、そこで取れた

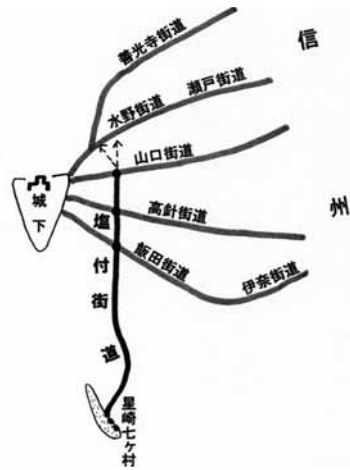


図2 塩付街道から信州へ



図1 星崎の塩浜(尾張名所図絵)

塩には「前浜塩」というブランドがつけられていました。(図1)

塩は笠寺台地の西や南の塩倉に集められて馬に積まれます。そして北に向かい、御器所台地で交差して東に伸びる信州飯田街道とも呼ばれたいくつかの道を伝って信州方面へと運ばれていきました。そのため北に向かう道は、塩を運ぶ馬の行きかう塩の道となり、「塩付街道」と呼ばれるようになりました。(図2)

2 星崎の塩を運び出す道 …塩付街道

(1) 塩の道

人間にとって塩分の摂取は不可欠です。そのため古い時代から塩の取れる海と内陸部との交通ができました。そして交換経済の発達とともに海岸と山国とを結ぶ街道が形成されていったと考えられます。塩の道は全国にその跡が見られます。信州と東海地方の間でも、遠江、三河、尾張から秋葉街道、伊奈街道、三州街道など、塩の道として語り継がれています。

知多半島では古代に塩を作っていたという伝えがありますが、星崎の塩も中世には生産されていたようです。そして室町時代に盛んになります。信州への街道もその頃できたのでしょう。江戸時代の初めがピークで、中期を過ぎると瀬戸内海からの安く、大量の塩に押されて徐々に衰退していきました。

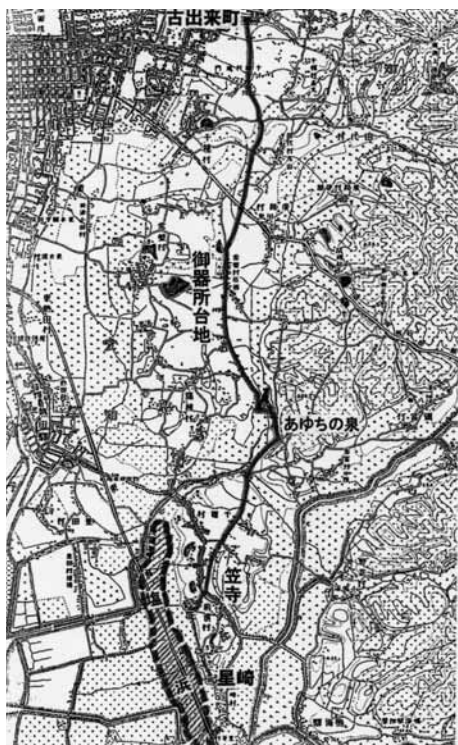


図3 塩付街道(明治21年)

(2) 塩付街道

塩付街道は自然発生的にできたと考えられます。このため起点とされている所がいくつかあります。南では鳴尾で一時期塩を支配していた永井家(小説家の永井荷風の実家)からというもので、その北の星の宮からという説もあります。また中央部では松本地蔵石標からとか、北では富部神社辺りからというもので様々です。しかしそれらは1本の道につながり、桜から笠寺台地を北に下って瑞穂公園付近に出ました。そして山崎川を渡り御器所台地を北に進み、まず飯田街道と交差し、次はその北で高針街道と。そして終点とされる古出来町(小沢屋という醸造屋がありました)では山口街道やその先の水野(瀬戸)街道、善光寺街道にもつながっていました。(図3)

3 瑞穂公園から飯田街道へ

それでは塩付街道の一部を歩いてみましょう。比較的昔のイメージが残るのは瑞穂区、昭和区の御器所台地です。スタートは山下通、地下鉄の環状線ができれば瑞穂運動場東駅からになります。

山下通の交差点を北に、2本目を左に曲がり少し坂を下ると右側にあゆちの泉の史跡があります。万葉集の「小治田の年魚道の水を…」(巻13・3260)と恋歌に使われた泉の場所はここだとされています。大切な史跡ですが、押し寄せる住宅開発の波が心配です。塩付街道はその坂を下った瑞穂グラウンドの東側を回る道を通っていました。



あゆちの泉の史跡

北に向かうとすぐ山崎川です。昔は休日診療所の付近で川を渡ったようですが、今は少し上流の左右田橋を渡ります。渡る前、手前のマンションの右脇に太政大臣藤原師長の琵琶ガ峰遺跡の碑があります。この上の丘は平安時代の末に、清盛との政争に敗れてこの井戸田に流された琵琶の名手師長に因む所です。橋を渡った右側、いま瑞穂公園の一部になっている所は昔、鼎池でした。街道はその南の堤から西側を回って北に向かいます。公園の北側から先300^{メートル}ほど旧道は住宅地の中に消えますが、西北西の女子高の北側の道からまた復活し北に向かいます。

少し行くと右手にこんもりとした森が見えます。村上神社で、オドリ山円墳の上にあつられています。その先で街道がバス通りを渡った所に2本の松が残っています。この街道には松並木はありませんでしたが、古道らしい風情を添えてくれます。斜めに再びバス通りと交差する所で旧道は消えます。この辺りには汐路町があり、汐路小、汐路中と塩付街道の名残りを伝えています。まっすぐ住宅地の中を進んだ旧道は享栄高校の西南角からまた北に向かいます。その角の左側の宅地に小さな祠があります。昔は先ほどの村上神社の辺りにあった馬頭観音で、三面で正面に馬頭をもった見事な石仏です。

*

バス通りを渡って少し行った右に、今度は地藏堂があります。元は西の方にあつたようですが川澄地藏と呼ばれ、1667年に奉安とあります。



街道と2本の松



東栄町一の馬頭観音



◀市大東北角のみやみち地藏

白山神社と街道



その少し先、市立大学の東北角にもみやみち地藏と呼ばれる地藏堂があります。右に熟田への道があったのでしょうか。左は「なるみみち」と彫られています。

その次の幹線道路は渡れないので右の交差点に迂回し、ついでにその北にある藤成の神明社

に寄りましょう。神社の北口を出て1本左が街道です。北にまっすぐに伸びる街道の先に緑の森が見え始めます。石仏(いしほとけ)の白山神社です。この辺りは道幅が狭く、昔の街道の面影が残っているところです。石仏には不思議なことがあります。この神社の東200^{メートル}位の所に古観音という字がありました。そして奈良時代の立派な鬼瓦(市文化財)が出土しています。また尾張国分寺等の瓦を焼いたという窯跡があり、さら



▲飯田街道との交差(右駐車場が蹄鉄屋あと)

◀善昌寺

に大きな石が沢山あって那古野城や名古屋城の築城に使われているといひます。古代の歴史も面白そうです。神社の隣は善昌寺で、石仏の名の由来となった石仏観音などがあります。

*

街道を北に進むと幹線道路の手前で三差路を右折します。その手前のマンションの入口に地藏堂があります。三差路にも最近までのうらい地蔵と呼ばれた道標仏がありました。今は日進市に移され、街道の面影もありません。

地下鉄の通っている幹線道路を交差点に迂回し、また細い旧道を北に進みます。少し行くと左手に小さな公園があり、その向こう3軒目のお宅の玄関に昔街道の目印になっていたウバメガシがあります。街道は一旦広い道に飛び出し

ますが交差点を斜めに渡って少し先から左に細い街道にもどります。その細い道を150ほど進むと前々回歩いた飯田街道に出ます。左手の駐車場は昔、馬の蹄鉄屋だったそうです。

4 野仏の語るもの

この街道も、野の仏を訪ねつつ歩く道になりました。昔はこの道には一定間隔で馬頭観音がまつられていたといひます。街道がその使命を終え住宅開発の進む中で、仏たちは場所を奪われ次々と他に移されていきました。

この街道を飯田街道を越えてさらに北に進むと、日進通を越えた所に馬頭観音と子安地蔵がまつられています。戦後、転がり放られていた石像を地域の人が土地を与え、祠を作ってまつりなおしたそうです。今回尋ねてきた野の仏たちも、同じような善意に助けられ、今では地域の中に溶け込み、見守られているようです。

野仏の語るものはなんでしょうか？それはその仏の経てきた永い時のように思えます。街道を歩いていて観音様、地藏様に頭を下げる時、そこに、ふと世の移ろいの無常さを感じるのです。

花よ咲け 野仏つたう 塩の道

〈主な参考文献〉

- ①水野時二監修「瑞穂区誌」(1994、名古屋市瑞穂区役所他)
- ②水野時二監修「昭和区誌」(1987、名古屋市昭和区役所他)
- ③服部修政「知られざる御器所村」(1994、郷土研究所)



街道の目印だったウバメガシ